

序

室町時代の能楽の大成者世阿弥は、「若年より老後まで習い徹るべし」と言い、人生それぞれの時期に新たな稽古に立ち向かうこと―生涯稽古の大切さを説いています。この言葉は、能役者に対するものではないかもしれませんが、今日の私たちの目指す生涯学習についても、指針と励ましを与えてくれる言葉ではないでしょうか。

さて、「創る」活動は、「生きる」喜びの根源であります。人間は、幼児期から老年期に至るまで、精神的にも、肉体的にも、常に「創る」ことに情熱を傾けます。それによって、人は生き、それによって、人は豊かな文化を築いてきました。このような視点に立つて、本学は、今回の開放講座の基本テーマとして、「創る」を掲げました。まさに生涯学習にふさわしいテーマといえましょう。

次に、講座の構成において、幼児教育科・国文科の全教員が、それぞれの専攻を生かし、種々の分野の「創る」活動を課題として取り上げました。いうまでもなく、開放講座開設の目的は、教員が、自らの研究業績を通して地域社会に貢献するところにあります。更に、そのような視点から自らの研究教育活動を検証し、今後の研究に役立てることに大きな意義があると考えます。本学が、今回の開放講座を実施するに当り、全学を挙げて取り組んだゆえんであります。

この度、講座の内容をとりまとめ、刊行する運びとなりました。本書が、皆様の学習を深めるよすがとなるならば、まことに幸いに存じます。

平成八年七月

学長 京極興一